

# 第1回レフェリーアカデミー報告書（梶原康司）

## 第1回テーマ

「レフェリーとしての立ち振る舞い（正しいジェスチャー）を身につける」

### (1) 周囲からの見やすさ、わかりやすさを重視したジェスチャーを意識する

今回の事前課題で自らのジェスチャーを写真に撮り、見直した。写真に撮ることで、自分の癖や注意点に気づくことができた。また今回の朝のトレーニングから、ジェスチャーの確認を始めた。アカデミー生互いに確認することで、競技規則に忠実なジェスチャーができた。その際に、講師の方々にもより周囲に伝わりやすいジェスチャーの仕方やターンオーバー時のジェスチャーの見せ方・帰り方・走法などを教えていただき、初めて知ることもあり勉強になった。

実際に試合を吸笛するにあたって、プレーオフでのトップレフェリーの方々のように1つ1つのジェスチャーを大きくはっきりするよう心掛けた。事前課題での自分のジェスチャーの癖を修正して臨めたが、昨年度の第5回アカデミーで学んだボディランゲージ等をより使ったほうが伝わりやすい場面があった。私は国際的に見ると小柄な方なので、各ジェスチャーをより大きくはっきりと見せるとより伝わりやすく、説得力も増すはずである。国際レフェリーの池淵さん、檜崎さんは私と比較的近い体格なので、お二人が担当されている試合を見て吸収していきたい。各回でテーマが設定されているが、その時だけそのテーマを意識するのではなく、アカデミー2期目なので1度教えていただいたことはどの回でも意識しなければいけないと感じた。

また警告・退場を出す場面で正しい判定をしているが、慌てて出しにいつているように見えるので、間違った判定をしているようにみえると指摘していただいた。正しい判定をしているだけに、慌てていることで損をしている。警告・退場を出す場面ほどハードプレー・ラフプレーをしっかり見極め、冷静に対応していく必要がある。

### (2) 個人またはペアでの具体的テーマ

#### ・個人のテーマ

[コートレフェリー時、目の前のバックプレーヤーの1対1に対するDFをよりよく観察できる立ち位置をとる]

コートレフェリー時に目の前のバックプレーヤーが1対1をする際のDFに対しての判定が立ち位置が良くなかったがために統一できなかったので、このテーマを設定した。

今回吹笛するにあたって、目の前とバックプレーヤーの背後に位置取らないこと、近づいて観察することを心掛けた。バックプレーヤーとDF とがかぶらない立ち位置をとることはできたが、近づくことによるデメリットも感じた。近づくことで観察できる範囲（視野）が狭くなり、次のプレーへの反応が遅れた。特に、5:1DF など高いDF をしている際はより全体を把握できる位置をとることが重要だと感じた。コートレフェリー時は、最終ライン（主にセンターバック）を意識した位置取りが大事である。またトップレフェリーの方々のコートレフェリー時を見ていると、全体を把握できる位置をとり、あまり動きすぎているようだったので、より観察できる立ち位置を研究していきたい。

#### ・ペアでのテーマ

[ゴールレフェリーが両 45° のライン際でのカットインを判定する（領域分担、ライン際はGRに任せる）]

昨年度のアカデミーで領域分担が課題であると感じた。特にライン際でのプレーで、コートかゴールレフェリーかどちらが判定するか曖昧となる場面が多く見られた。ペアの荒木とより説得力のある判定をするために、ライン際はゴールレフェリーに任せることに至った。

このテーマに関しては、今回は荒木と担当した試合ではクリアできたと思う。しかし、多くのレフェリーの方々の話を聞くと、今回設定した場面では各ペアによって違うことが分かった。ライン際でも、状況やタイミングによってコートレフェリーが吹く場面もあり得る。選手・ベンチを納得させることができ、説得力の高い判定を求め、ペアで再検討していきたい。

#### 「反省・まとめ」

私はレフェリーアカデミー事業に参加させていただいて2期目になるが、講師の方々の要求も1期目より高くなる。アカデミーはジェスチャーの確認したり、立ち振る舞いを見てもらう場では無いことを感じさせられた。1期目で指導されたことや事前課題のテーマは地元で試したり、確実にして、アカデミーで新しいことを吸収するというサイクルを着実に構築していきたい。レフェリーに何より求められることは、正しい判定である。2期目ということもあり、「事実判定」に重きをおいて取り組んでいこうと思う。私は人より審判ができる環境に身をおいているので、男女・各カテゴリーを経験できるアドバンテージを最大限に活かしたい。

また今年度より設定された「審判員の心得10箇条」に常に真摯に向き合ってレフェリー活動をしていかなければならない。講師の方々からのハイレベルな指導や、高い要求に応えられるように地元で精力的に吹笛していこうと思う。